

## オープンイノベーション実習 テーマ提案（学生募集内容）

テーマ名称	街角カメラを活用した新しいサービスのデザイン
実習責任者	デザイン学ユニット 特定准教授 十河 卓司
実施協力者	日本電気株式会社 グリーンプラットフォーム研究所 西村 祥治、蒲池 恒彦
テーマの背景	近年、街角において多数のカメラの設置が進んでいる。これらの固定カメラに加えて、今後、車やドローン（無人航空機）に搭載された移動カメラが普及することにより、空間的なカバー率が拡大すると考えられる。さらに、データ記憶技術の進展に伴い、長期間にわたる映像の蓄積も可能になると考えられる。このように、膨大な数のカメラが接続された新しいインフラが出現しようとしている一方で、現状ではこれらのカメラは防犯や捜査などの監視目的で用いられることが多く、一般的にはネガティブなイメージが付きまとう。そこで本実習では、この新しいインフラの“ポジティブな”活用の可能性を探索し、新しい市場を開拓する。
実習の概要	本実習では、インフラとしての街角カメラの新しい活用法について検討する。その際、主に実現方法（How）ではなく何を実現すべきか（What）について重点を置き検討する。そのために、様々な視点（専門性、世代）を持つメンバーからなるオープンイノベーションチームを編成し、ワークショップを連続的に開催する。受講者には、ワークショップの実施計画を立案し、オープンイノベーションチームを適切にマネジメントすることを通して、オープンイノベーションを成功に導くことが求められる。
実施計画、実施場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実習チーム（受講者と実習責任者）のミーティング、および協力企業とのミーティングは、原則としてデザインイノベーション拠点で実施する。</li> <li>• 委員会（専門家、学生等によるワークショップ）は、デザインイノベーション拠点、吉田・桂キャンパス内の会議室等にて実施する。</li> <li>• 必要に応じて、大学や企業の専門家へのヒアリングやフィールドワークを行うことがある。</li> </ul> <p>詳細は実施計画を参照。</p>
受講者の役割	当初の目的が達成されるよう、ワークショップのファシリテーションを含むプロジェクトのオーガナイズを適切に行う。例えば、新しい活用方法を探るために、委員会メンバーの選定を工夫する。ワークショップでは、専門家の知識を効果的に引き出したり、新しいアイデアを効率的に創出したりするためのファシリテーション方法やデザインプロセスを検討する。ワークショップ開催前の情報収集や、開催後の報告書作成なども適宜行う。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>• FBL/PBL を経験していること。 （FBL/PBL 1 と 2 の単位を取得している者。または、いずれか一方の単位を取得し、かつ、サマーデザインスクール/デザインスクール in 沖縄/香港のいずれか一つに参加している者。または、これらに相当する知識と経験を有すると認められる者。）</li> <li>• デザイン学共通科目、デザイン学領域科目の単位を取得していること。</li> </ul>
募集人数、締切	<p>■受講者（デザイン学履修者）を募集する 2名以上、3名以下、締切：5月2日（月） 事前に指導教員に相談し、許可を得ること。 応募多数の場合には、専門分野のバランス等を考慮し決定する。</p> <p>□受講者を募集しない</p>

応募方法	以下の項目を記載したメールを送付。 To: takushi.sogo [ at ] design.kyoto-u.ac.jp Subject: OI 実習参加申込 本文: 氏名、所属、学年、メールアドレス、テーマ名称、応募の動機、その他
受講者の決定	5月6日(金)までにメールで受講の可否を通知。
問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法	ブレインストーミング、未来洞察法、など (参考文献) “デザイン学概論,” 共立出版, 2016. 堀公俊, 加藤彰, “ワークショップデザイン—知を紡ぐ対話の場づくり,” 日本経済新聞出版社, 2008. V. クーマー, “101 デザインメソッド—革新的な製品・サービスを生む「アイデアの工具箱」,” 英治出版 Wiley & Sons, 2015.
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 出席 3 割 (実習チームのミーティングには原則参加のこと)</li> <li>• 活動状況 4 割 (OI チームのマネジメントへの貢献やファシリテーションの実施状況。教員の観察による)</li> <li>• 最終結果の質 3 割</li> </ul> ※実習チーム: 受講者、実習責任者 ※OI チーム: 協力企業等のステークホルダ、委員会委員
知的財産の扱い	実習中に新たに生じたアイデアに関する知財は公知の扱いとし、Web 等で概要を公開する。その条件を前提として応募すること。
秘密情報の扱い	企業等の秘密情報は扱わない。
特記事項	

## 実施計画

日程	場所	実施内容
5月12日(木) 13:00~14:30	KRP 拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テーマの説明 (予備日: 5月12日(木) 午後、17日(火) 午後)</li> </ul>
~7月下旬	KRP 拠点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 期間中、3~5 回程度のワークショップ (WS) を開催する。</li> <li>• 各 WS の開催前に主に WS のプログラムについて、WS 終了後には振り返りと次回 WS の方針について、ミーティングを行う。したがって、目安として 6~10 回程度のミーティングを行う。日程は受講者の都合を考慮して決定する。</li> <li>• ミーティングのほか、委員の調整、WS のプログラムの立案、各種調査などの作業を各自で行う。</li> </ul>
8月上旬	KRP 拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 報告書の作成、提出</li> <li>• 最終報告会</li> </ul>

※KRP 拠点: デザインイノベーション拠点